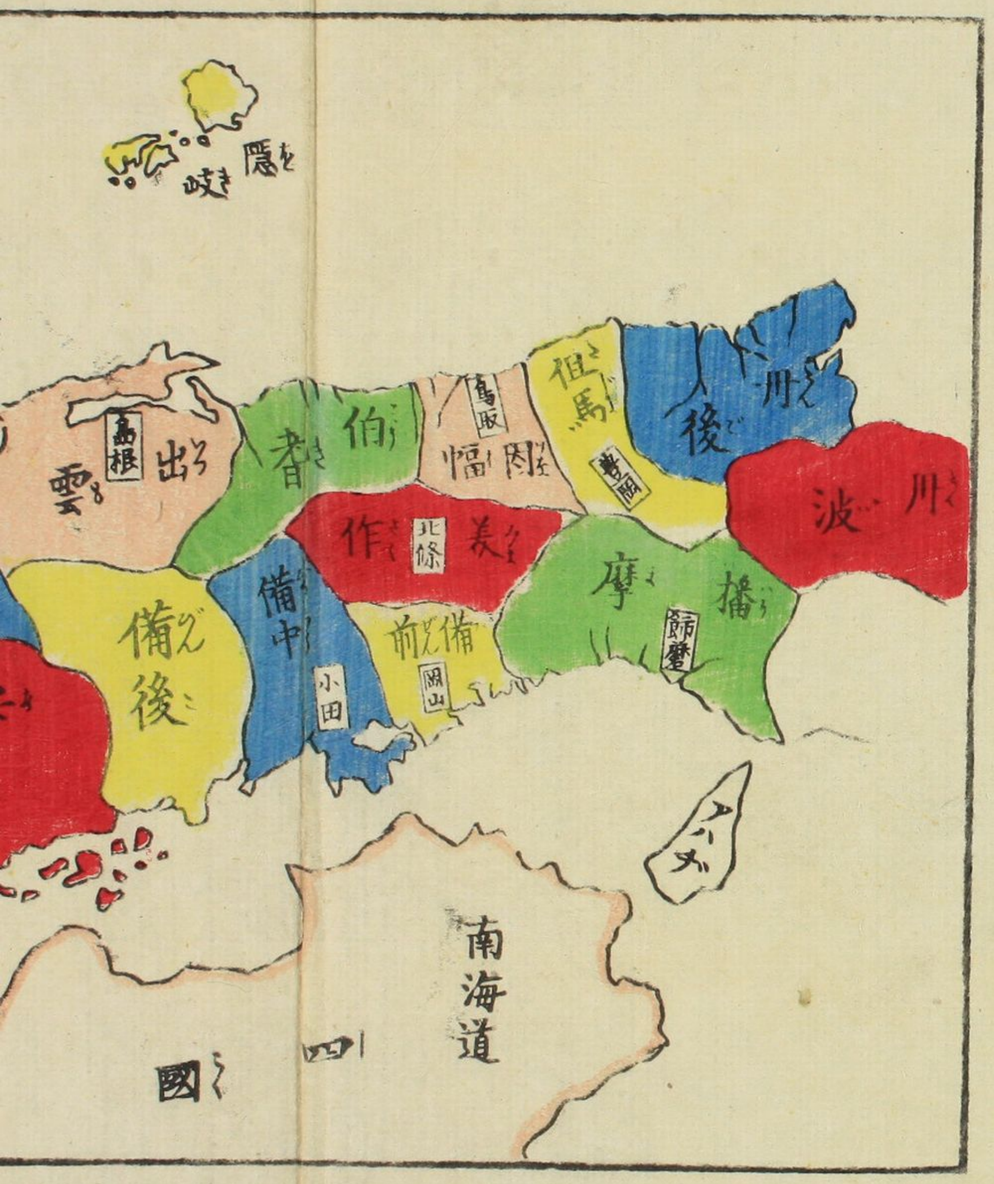
凡生氏

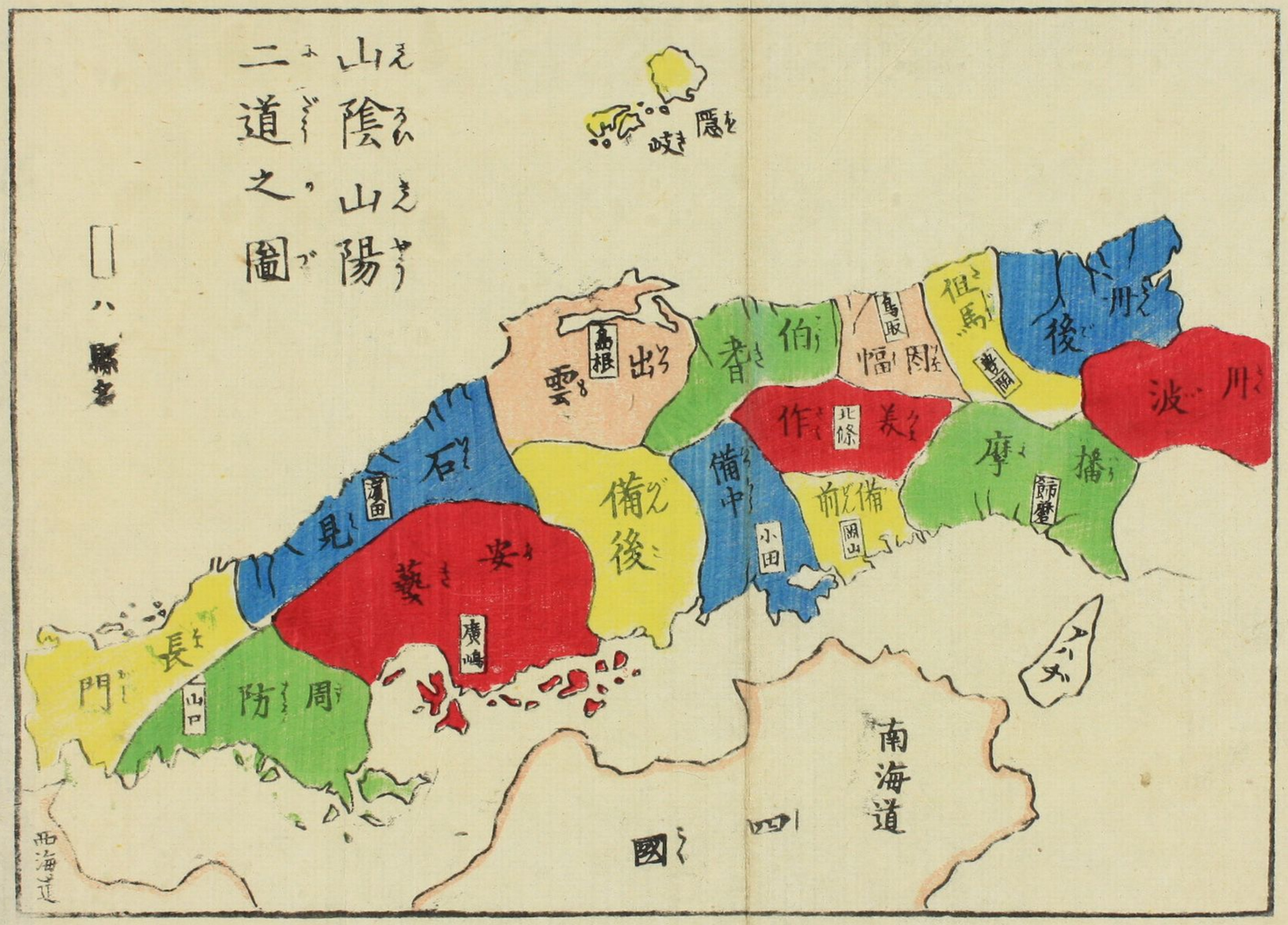
日本國盡

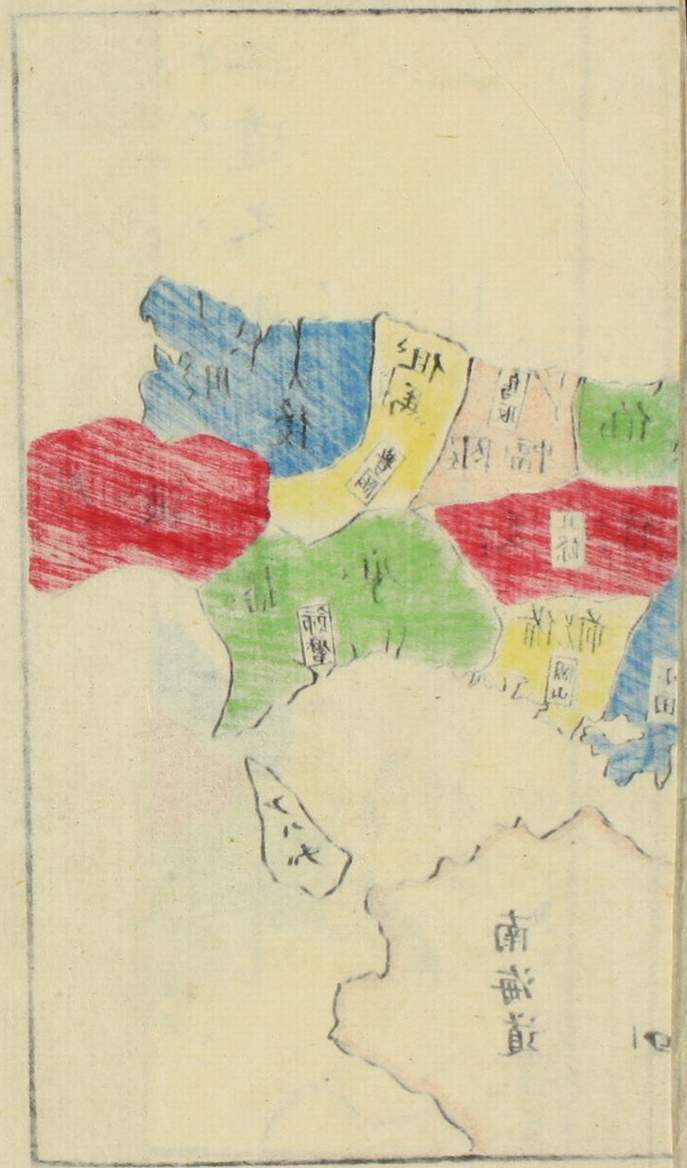
山陰道
山陽道

六


隱岐
出雲
島根
伯耆
因幡
鳥取
但馬
豐岡
後川
波川
作美
北條
備後
備中
小田
備前
岡山
摩播
飾磨
南海道
四國

山陰山陽二道之圖


隱岐
出雲
島根
伯耆
鳥取
因幡
但馬
豊岡
後川
波川
作州
美濃
北條
摩州
播州
姫路
備中
小田
備前
岡山
備後
石見
濱田
安藝
廣島
長門
山口
周防
南海道
四國
八丈
西海道



瓜生氏日本國盡卷六

山陰道ろく八ヶ國

山陽道も八ヶ國

是を西海二ろく五畿内ろく。
西より起りて生ハ真より真西
へつけて延びたる長さ

土地をだし山をもて。縦ふ二分し二道とす。南い山陽小山陰山陽道の正南ちゝ九州四國ち打向ひ内海僅ふ山陽ち山を脊負て陽ち山陰道ち山の北ふい一面

日本海是ゝそ則ち陰の山。北ち北東ちする丹波ち海部山城ち東ち山城迄江海ふ沿ふり西ち美狭地と丹後但馬や南手ち摂津播磨ふ地を隣ち四方

山岳團欒として西と北とを
殊更に山高き故なり。
赤見黒谷矢代嶺
嶽ふたらぶ鬼ノ城丹後の
國と其境なる四方の山
より出る水集まる水い

二河と有て東の一筋い。
山城より入る大堰川西と北
と山に成。水も丹後の大川
ふ流れて田邊の海ふ入る。
國に成家候も北ふの地海
どとて寒く有ゆきどゝ

谷間なるまゝ空雪も烈しく四季霧深く陰天見えず如事あり其人口を數ふるに二十八万二千餘民の風俗惰弱にして如き一人もなはず其管轄

全國を西と東に中分し東の船井伊賀小桑田を加へ三郡を京都府廳の支配なり西は大田紀水上迄三郡を西和の母後但馬の一國を備きて但馬の

豊後の国。その産物は烟草
小茶・昆布・蒟蒻・椎茸・胡桃・榧・稗・粟・蕎麦・粉・蕨・丸太・
京・丹波・安芸・豊後の表・布
砥石。
山陰道の中二番丹後を

丹後の北の方海へ附の国
一郡也。東は若狭西但馬。
北は界目を山境を隔て
名所のまた大江山小江を入海
三つあるを名所旧跡数
しまつて東の方小田原の

海田邊の城市にぎはし。
丹波乃国より流れ来る。
うれ大川の河口の由良の
港を打過きて入る海
を與謝の海の小よろ
東へうけ突き出る岬を

絶景奇妙連
綿と海乃中央を二線よ
横截りて天然の橋
を架せり。小美乃浜長
さ二千二百丈闊さ
大概九十丈是をん天

橋立とて。所謂日東三景の
第二とこゝ也。孫ゝ有きし
八江乃南ゝ宮津城市
はゝ一舟大岬岬ゝ
鷲崎也。小嶋沖竜を右
にして西ゝ向へゝ水の江也。

さて名ふ月見ヶ浦島ヶ
子の船出をして家をとして経
ヶ岬より真野浦五色ヶ浜
やや大鼓ヶ濱浅藻川まで
夕日の浦佐野川越えて
久ヶ美濱を見て西方の

八海で全國五郡人口を。
一十四萬七千余上下男女
を始め左へて好人まれなる
風俗なるを拾ひ管轄を
一国を去べて但馬の豊岡
乃拾ひ縣廳に支配たり。

國小名を潟産物を撰
糸綿也丹後縮緬葛
筵文殊貝金左帝 鶴海
嵐鄉。
東三但馬を北を海東い
丹後丹波の法南い播磨

西國播磨界にまたがりて山あり
て其山より落る流れ
水を國内縦横に流れ通
りて海に入る其の大なる
出石川と称し水源乃播磨
地より隣国なる山なる生野

山あり銀山あり白銀を
掘り出すこと盛なりまた
河口乃城崎乃湯島乃
湯乃石地山水高龍花
乃桜四時小湯治乃客
多し其南の方豊岡の

所々縣廳あり地方にて當
國一國八ヶ郡丹波一國
於丹波又丹波三郡を管
轄す土地も頗る肥饒にて
風土も丹波に中同じ
於人口概略を一十

六萬七千余にて風俗も
丹州よりは少し實あり
方言にて南ふりし郡ふ
之地乃きこと所あり
其産物にて出石絹・柳
麦・糸綿・芋・苗・草・藍

茶種類。多倉山捌ヶ所石銀。

第四因幡ハ北の方海ヲ面して三方ハ東ヲ但馬南ハ播磨美作西伯耆國界より國内ヲ通て

南ハ山深く東の方ヲ因幡山西ヲ越鳥峯對立て。せんたん川や因幡川國中數流乃川の水一ツヲ合て廣大乃加留川と來り海ヲ入る。其河口南手ヲ立て

たる城市なり鳥取となり。當
ふたらびの小隱岐伯耆二ケ
國を支配する故ゆえ縣廳の
ありて所池なり東の湯山乃
池中なる小山なり西日光の
山ゆ池なる青野ゆ風景

頗る悪し一國人口
十二萬八千あまり風俗
質朴者実にして南山ゆ
ゆる実あり海手ハ物産
豊なり俗物さて産物
ゆる海索麺木綿干鮑杉

原紙

第五伯耆社國形を帳牒
乃象ふさゝれ伯耆南を
頭ふゝを尾古社羽根い
東南と西北の地へひろ
まゝ左乃羽先ゝを因幡の

國頭乃方を美作と續て
吉備の中社國古社羽先
ゝを備後ゝ西ふ面を出
ゝを乃國東ふ面を日本海
ふふさゝ出ゝ尾の末ゝ
出雲り向ふ岬ゝを名和

乃浦頭をうち圍む。北は
うらわかもの米子城迫く海
ゆる舟乃上隱岐乃ふより
後醍醐帝。巡幸東海て
風雅を駐めたひ行
去所夫より國は南手て。

山し峯を越て重手。さてく
きてく高き大山也。絶見鍋
山尾山是乃ふ也さてもち
附庸乃ふ。河ふ西手
日根川也。東乃方ふ橋津
川。乃ふ川し數志者く。皆

少海へ注ぎ入る。一説に影
人口を十二万余と九千余。
風俗虛實定まらず。三百
餘年を経て始の筏
猿を隣国乃鳥取縣乃
支配なる鐵と錫不然の

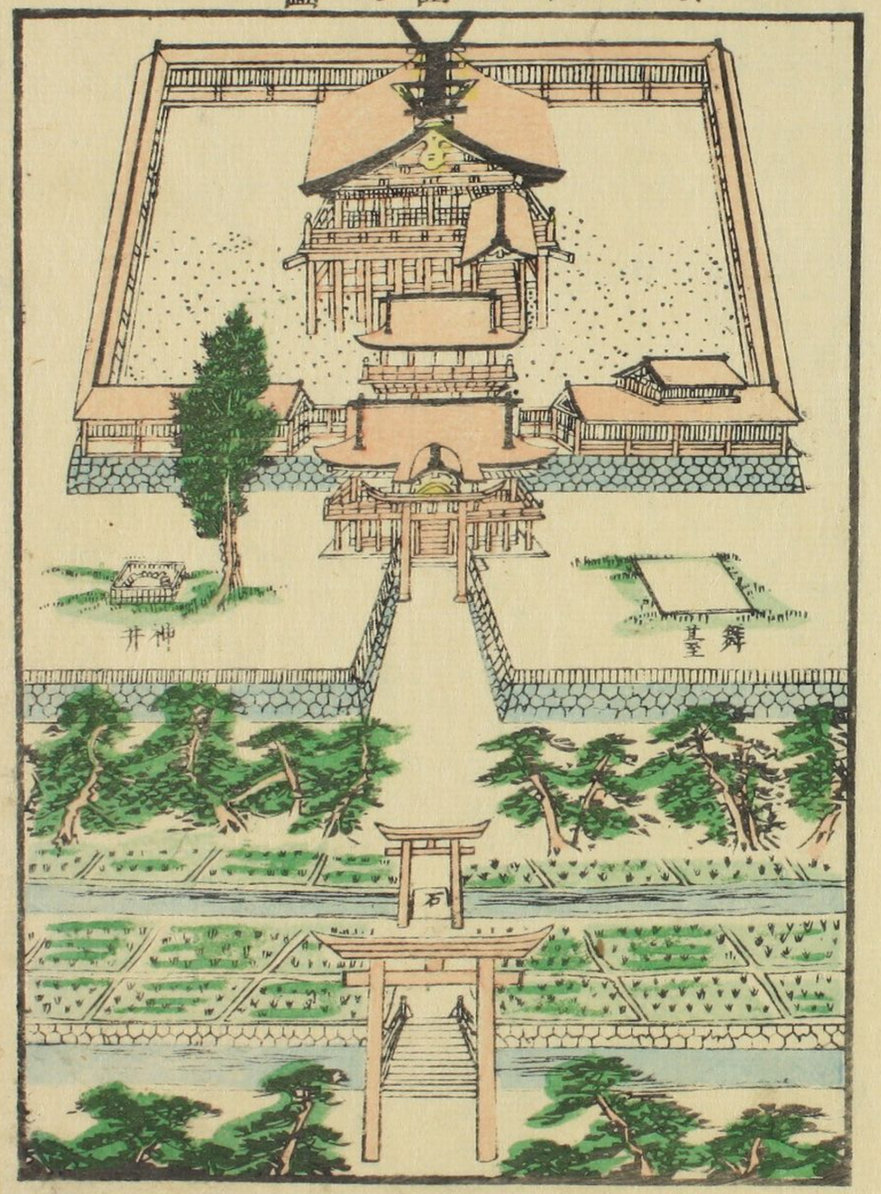
膳や大山草葺米を産
出。是また古の産とし也。
出雲山雲乃國東を
伯耆南の方備後石見と地
を接し北は一西を海濱不
て全國十郡拾九中の神

門飯石より大原や仁多郡の義
意字乃六郡を大陸にして
西北へ神門と意字乃間より
出さし出し岬を出雲郡を
乃東より東へうけ楯縫秋
鹿島根郡折て曲て東出

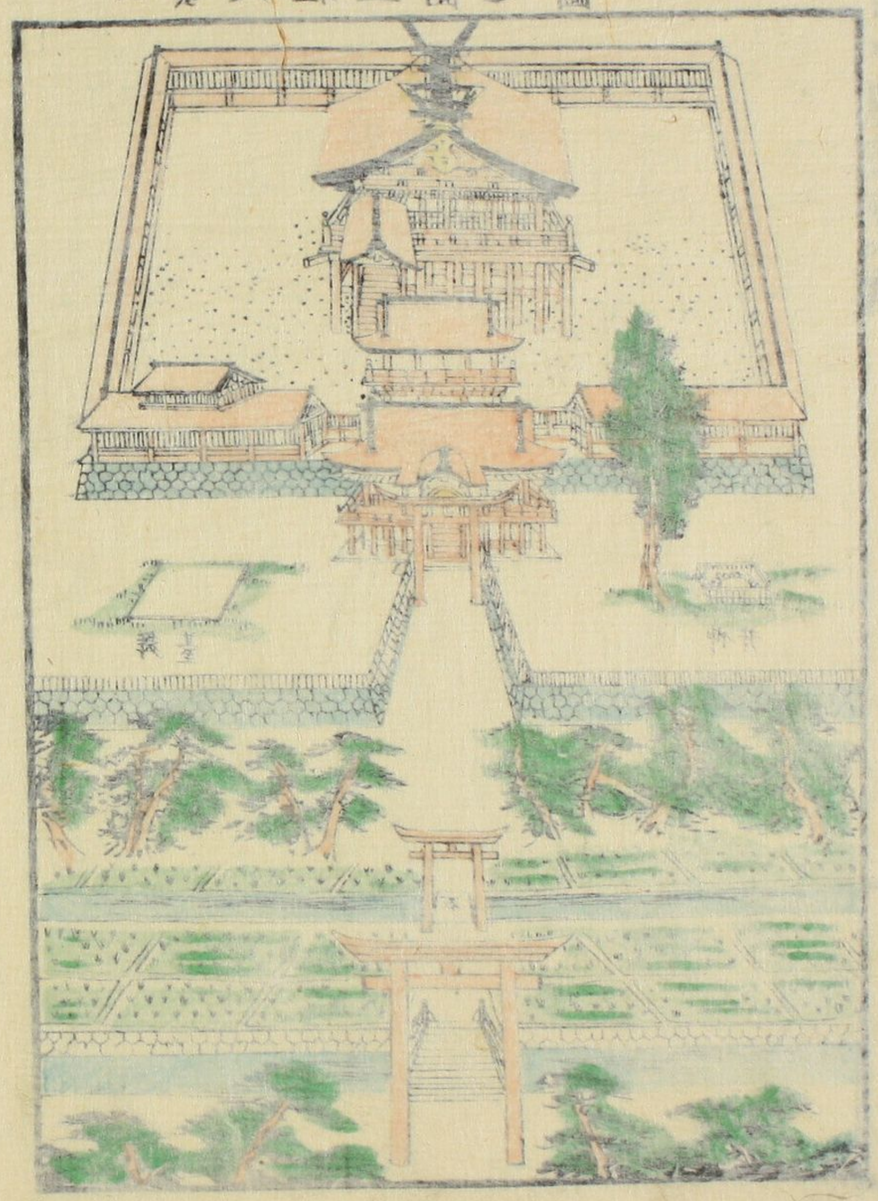
し廣き入江を包て迂む東
乃端を三保乃関伯耆の岬
とする對し呼て鷹ヶ峯むら
をを入江乃内を袖しの浦
伯耆の國乃名和の浦錦ヶ
浦九妻乃あけぼの浦

松江城。こゝも兩岸せゞ面り
て。湖水囊乃中ゝゞ程。揺も
く往來乃角ゝ程とゝて。こゝも
ゝり西ゝゝ大湖水。秋鹿郡い
沖津浪へ流乃きゝる住古
浦女神男弥の二柱伊特

出雲大社正面之圖



冊俾特諸の大社。出雲郡の西邊にあり。抑藥社名より大社。國土乃經營百穀乃護志給へる御神にて。大貴乃尊を祭る。中宮宮居なる。扨西へ二里餘り



日乃岬を素盞烏尊を
祭る大社なり。三社合をて
出雲の国大社とも中を好。
中国南山おほく琴弾山や
龍頭瀧。之河ぐ山乃北東を
宇乃郡を八雲より出雲八

重垣揖屋坂。岬より鶴山枕木
山川を敷乃川出雲川。山川
名所いと多し。一國中乃人
口を。二十七萬九千余風俗
実義多事をとゝ。邪正の
分別疎の有る。其管轄を

松江なる。町ふ立てたる島根縣。於て名産て鉄器付深所り野白紙。松江の能舞と朝鮮。

七ふ石見て東の方出て備後ふ連續て安藝を沿

ふて西南へ。折磬形り延袤て先て周防と長門乃國。南と西を限り圍む。西ふ面て海り向き。三方山て却て巴て岩巖石峻て山高て因て石見のふとつふ

國を西へ流れ護府の川。其水源は安藝備後。東の方より流れ来て。北の海へと注ぎ入る。西より川と海合て。三角川乃流と成り。流れて入る石見潟。高角山より人丸の古跡今は尚のこる。浦は大湖唐の浦。戸田乃港ふかい湖の濱田は當國一國乃。管轄廳のある所。之を濱田藩と云ふ。人口二十四萬余。其内風俗丹後ふかい。智あまど

實ある人稀なり。南北磐
銀と錫。鉛白密榧の木。
隱岐は山陰道。東八番。出雲の
沖中にあり。島前嶋後と
二分して。おのゝひとしき立
嶋の内。島後は周廻三十里

半。出雲の三保より十八里。
於知島前は知夫里嶋。西の
島まで中は嶋。三嶋合して
おゝ称也。知夫里より七里の周
廻にて中の嶋より十七里。西は
二十里あり。周廻程なり

小嶋にて却て岬港の数
たまたび。島中山に亦多し。
中の島を海部郡。承久二年
乃此に昔。後鳥羽の帝虚
臣に北條義時乃てのうひ
て巡狩あるとて御座の跡。

西の島を義時の子孫
時父祖に似て悪逆を乃甚
しく正應元年没駿州に
帝を遷し奉る行
宮に跡の
所もこゝにあるとさて此島

国郡の。名郡の支配にて。
捕れし人口にて。屋くりにて。二
萬一千七百人。北海中乃島
々にて。寒雪尤も甚しく。
人家も乗船放逸たり。
捕れし産物にて。串蛇海鹿

鯨ふ桐と桑乃木

山陽道

第一に摂津の西に播磨の国あり。播磨の北は山にして色々の玉出る。母酒倶にして因幡と隣り。皆きたて西に美作と備前の国隣せり。南は

一面播磨灘。摂津と界の
塚川越くれば舞子乃濱
つゞき明石の浦乃船霧の
後ゆゑ見ゆる淡路島
嶺を揭て渡るべし明
石の西は加古川の口を名ふ

却ふ高砂や尾上の松は
年ふるまでも君が千歳を
壽ぐまで其西は方市川
乃流れは岸ふ南北の十
六郡の一國を支配の飾
磨郡庭を立渡せる

市街にて之を姫路
乃市街とゝふ西条川に
西の方室津を繋の条乃
一港沖に島に数布し
て淡加家鳴是
おゝ頻る大きり宇根川

より西に赤穂に
義士に故郷にて大石櫻
吸き沼ふ備前の沼ふ
程近に山に東に北に
山に金倉雪峯山備
前界に船坂山其系に

白旗山一國人口六十萬人
烟稠密古北富饒。宮室
溫和乃國者てど。人多智
あまたて義理を知く。其
產物ハ赤穗塩鋼鉄瓦、
革

東ニ丹後アリ。海
を隔て國の十四番。陰陽ニ方
ハ色ヨリ別て。四方を圍ふ
西ハ丹波ヨリ因幡と伯耆
の國。東ハ播磨西備中。
南ハ備前の海を置き。

東西長くして南北短く狹く足痕に形のごとく乾
よりて巽乃方に向ふ西の
堺に山多く地高く牧乃河水南流
して紀伊津山乃川となり

堺に到りて東に流れて
海に入る水と會して備前
乃國に入る是を即ち
東川と西に乃間に書
東南に馳を備前地へ
落ち入る河を笠江川

其門西ハ赤見山。東北方ハ更山や山乃北ゟ津山ゟ國の中央の一市御ハて當國一國管轄の北條郡庭こゝハ一郡ハ郡十二郡人口大槩十五萬人元ゟ畢竟のゟ

ゟ海ゟ出て石ゟ多ゟ採ゟ其産物ゟ硯石者三備前ゟ出ゟ土地の形恰ゟ蓮の實乃ごとく南ゟ潤く小狹く西ハ一帶

備中北東は播磨東は
備前の地を界とし南
は都て海を隔たり北は飛
騨國内へ河の水を流し
東は國を分て三方
南北海より浦き入る西は

即ち笠岡川東乃方に東
川を北川下に吉野川口
乃對を兒島の端四人島
を昔島なりしが今は
東西和田を半嶋と
なる備中の郡名

連なり。本地と島の間を。
一長灣を色みこむ。其
川の川東宮山。濱を
牛窓也。唐琴浦より見
渡せば。前面大島也。路
乃。時々数立ち并ぶ。

山を熊山。天神山。十三
峠を播磨地へ往来り
たる坂。笠江川
乃西岸小間きゝ市街
を岡山。を當國一國八
郡を管轄し玉ふ岡山乃。

其縣廳を立て置る。一郡
中の人口を。三十一萬八千
余。家を異中和ふ風俗い。播
磨乃国ふ稍似て。其外
産物を伊部焼。索麺醤
油刀類

東四備中國ふ新恰も烏
賊乃ごとくふて。北接ふ
を美作と。伯耆を間り
揮ふ左を備後右備前。
膳を一面海ふ傍ひ豆魚
海中ふ曲て出て出て

是ヲ備前ノ国ト。即チ田舎
乃半島ニ。比叡山ヨリ平
地ヲ見ル。北ニ剣尾山。
其東南ニ塩城山。赤穂
前山。悪山。東乃界リ八
幡山ヨリ牧川合流

国乃中身ヲ貫キテ南
ノ海ニ注ぎ込む川ヲ称ス
甲部川。国ノ中央ニ流レ
テ。甲部川乃東岸南
ニ田地ノ数多ノ地ヲ拓ク東
ニ一水ヲ吉備津乃

社乃西を辿き。思ふ所の
西北灣ふへる。備後の境ふ
程近き。海より望める笠岡
ふ。市御を勅ふ地ふ
て之を当ふ十一郡。備後
乃東半六郡を支配し

玉ふ小田縣ふ有り沖を遥
ふ水嶋洋。海上島嶼数多
し。全國人口三十萬。土地
一体ふ肥沃ふして上ふ必ず
名を得たり人の風俗を地
ふて義理を厚ふ風

物産物を小菜
紙漆蚕繭柳繭。
者五備後国に就
乃沙汰ごとふく皆号
東備中小橋にて東北
巓頂を伯耆に界り

其啄と唄候を出雲石
見と安芸の国三ケ国に
隣して北に頸を一面に
南海を不相隔東に
阿波東條川東に流を備
中の甲部川に注き入る

北小菊里に数ヶ所支流
西り合流し安藝ヶ里
来る川水と一つ合して
石見ヶ里る。江乃川水の源
と出る上野山乃南北方。
安藝ヶ里東ヶ二ヶ川里。

合して一つ乃河と成て来。
蜒ヶ曲里伊勢山北東を
通て三つ四つ乃枝り別
ヶ海小八る。薑田川と成
是ヶ里。北ヶ間ヶ福
山乃海り流れる市御小

さて対馬の西手より海中
ふ突出し岬さき鞆の浦往
来の船の船間日本九一所
猶と韓國人を記したり。
是さて西さて海灣ふく。
地方さ尾の道ふきふく。

沖さ田嶋や向嶋さ分高
乃数おほし。全國さべく十
四郡。西と東ふ二分さく。
東の方乃六郡さ小田縣
管下ふおほし。西八郡さ
安藝の国廣島縣乃管

轄て人口三十万余人元
を生得寛和なり北の方
産を名て廣き備後畳
表う合相編笠
光い番を安藝の国境
髑髏のごとくして西を

周防小地を接て北を曲
まて弓形ふ石見と備後
小地交て東の方を北
敷て備後乃西南隣接
をさて北を一帯て
備後つゝきて海と初る

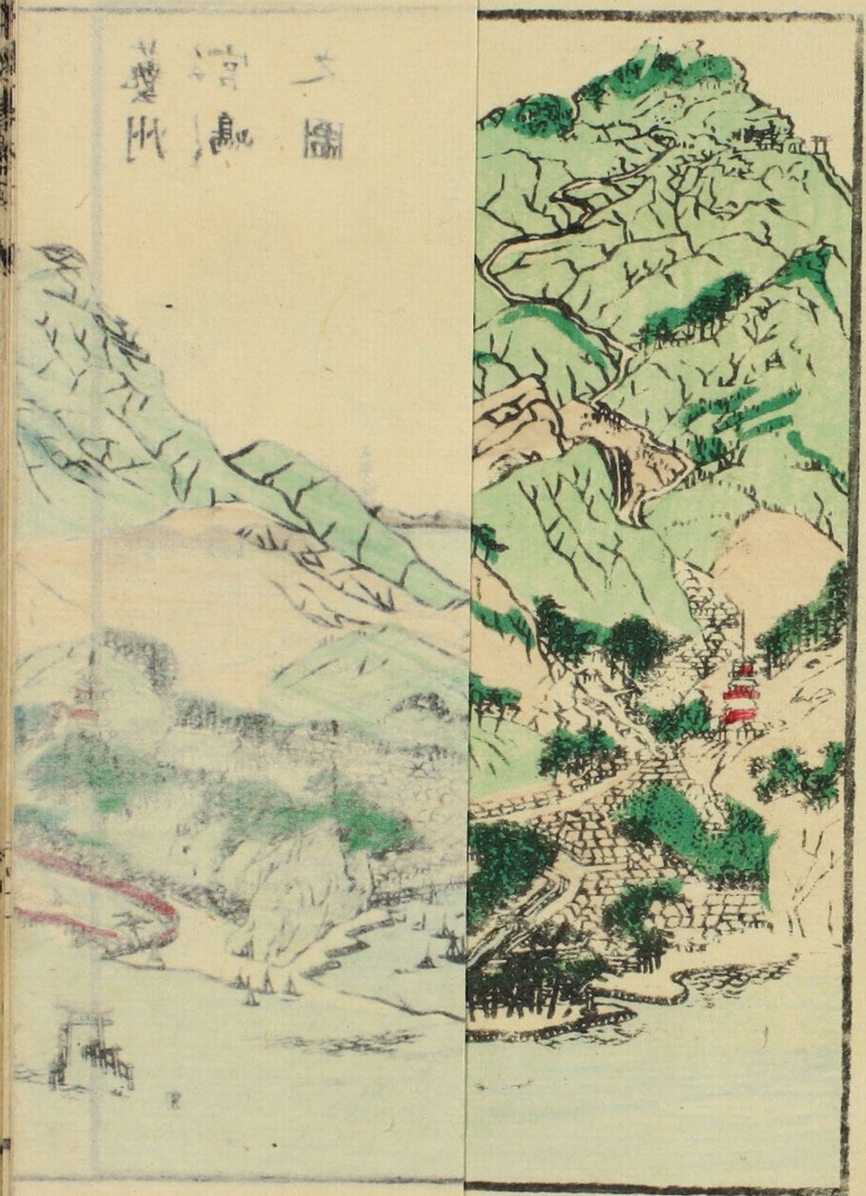
於て山陽は國の内三備
の大都平坦り地よ
て山多く北より南へ西
へ流れ水も東なり
髑髏乃額の如き折て
曲て額を傍ひ備後の

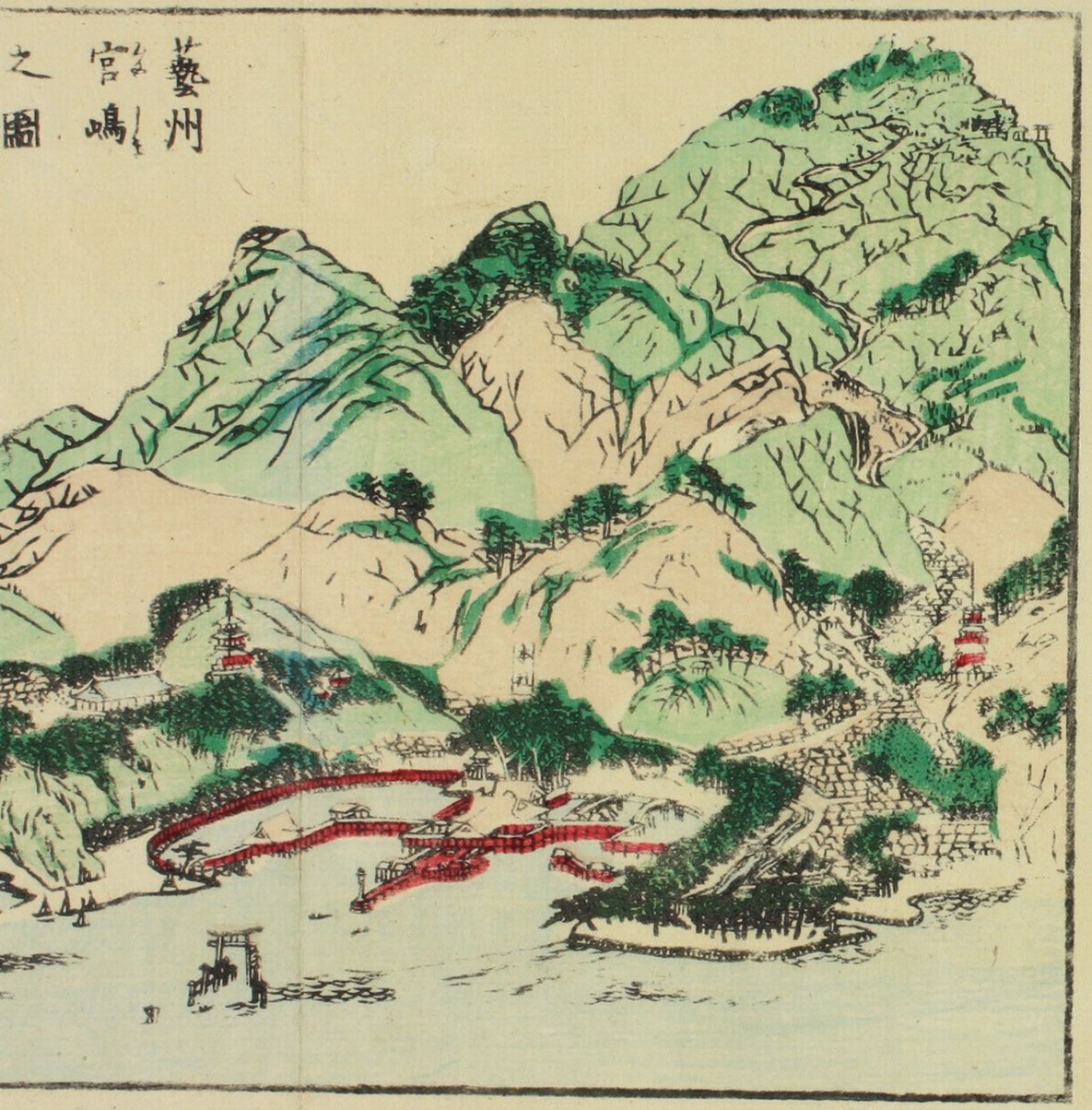
水小義合て石見より流
流れ入る髑髏の後頭より
あり是より東へ水
東流て國の中央を經
て北へ東乃水と合流
南へ折て三又の川より分

て海に入る。西に百川を
小屋川に。東に二又の百こ
を。廣嶋と云ふ市街を
て。當國一國八郡と隣る
備後乃八郡を。支配の廣
嶋縣廳を立置たる所

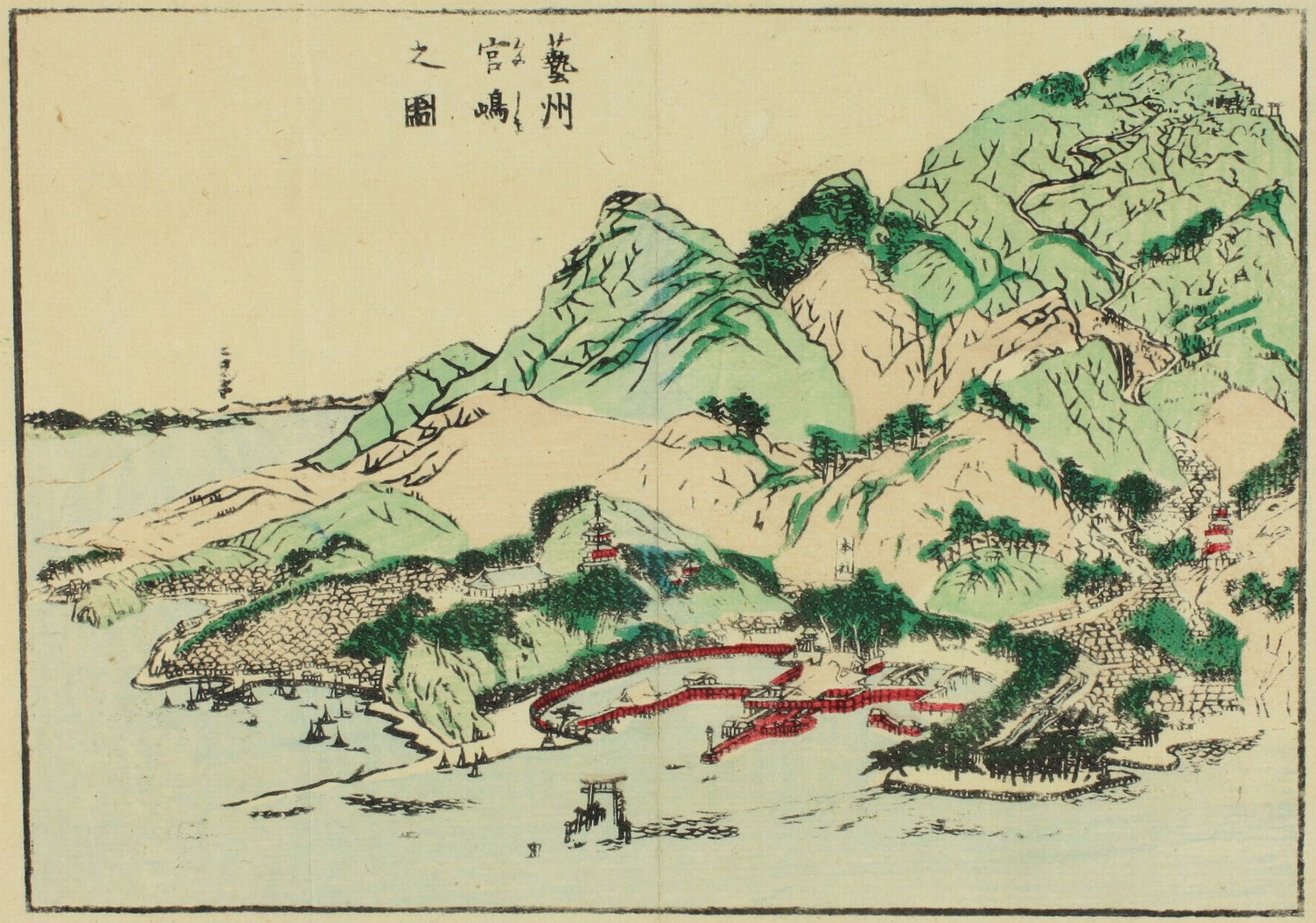
なり。廣嶋神社。大灣。
小屋川の西に。川乃海に注
ぐる川口より。東一里に海辺
に日本三景に。つ。る國
七里に宮島。市杵嶋
姫に。熊屋に。神殿四殿

壮麗小浜を孫山前を海
左右を原野松原也絶景
無双の鳴戸の一望抜ん
不可言者なり江田也音
頭也浦也前方時
瀬戸田鳴音頭の鳴を抜





壯觀小浮き弥山前き海
左右き原野杉木や繁茂
無数の鳴鹿ぞ遊ぶ
大小鳴き者く江田や音
頭や浦前き時
瀬戸田鳴音浜の鳴き拂


藝州
宮嶋
之
圖

乃昔半島と為すを誠
切断て船舶往来の便を。
之を音頭瀬戸と云ふ。
此地風土温暖なり。地味も
大都厚く人口大尾五
十万。風俗奢侈多き事なり。

ひの〻免きたきの所あり。其
乃産物ハ鉄と牡蠣出る。
ト葛花ハ海苔多し。
者七周防ハ破ハ出る。能
乃貝ハ似りとて栗ハ
安藝ハ北ハ石見西ハ長門

ハ地を接て是ハ牡貝
乃輪廓ハ南ハ一帯
周防洋ハ地ハ屈曲ハ
多く貝ハ破ハ産で
界ハ二方山ハ
東南安藝ハ境ハ

岩國と呼ぶ市街あり。
宮島門を抜西より迂迴屈
折過き来る其東より
海に入る橋を錦帶橋
と呼ぶ岩國山を抜て西
より佐須川の一

水分まてこゝとなり。ゆき
東し一、南。又西ハ海
き。共ハ海中より蒼く分る
ゝこゝハの間をもて。東西二つ
の岬ともて。東の岬乃向例潮
戸を隔てゝ一大島是也

大嶋の名といふ。地勢の小島數多し。西北の岬を室津港より八四五里室積や南と牛島長崎の。南乃濱を上の関上より関より北西乃地方を徳山市街にして其

先に西に向ふ川崎川地も此川を西の方佐波の河水と並行し水を後に南乃方に接続中間に一水の川あり互を連絡を怪石羅馬の頭字の形ふくく

仍り。佐波川口より東地を。
突出し岬より中の関迄五千
百間にて天神山弟山より
北より方山口に出る。當國と
長門一國管轄山口縣
廳ある所にて一国の人口八

三十五萬八千余家二萬五千
餘戸にて風俗頗る
健なり。さきど義理を尊
疎にして拙く半紙揭示、島
子紙紫染にて縮布是ぞ
即ち古地の産。

者八長門にて山陰と山陽との行止る坤より艮へ向て長き國にして東は石見東南は豊前防の海と地を接して其他は三方海を受て北より西は岬あり海灣あり埋て

間錯す。數へ擧るに暇なし。

西南の端國形の地形を考へて高方乃周防に近き處にして未だ岬と云ふあり。岬と國地の境の間に海灣となり有帆川淺川吉

因幡諸流水流出て海に注ぎ入る吉田の川は上流。如来堂より中程で一支を分ち枝を西へ折て巡二の山と甲山の北方にて二タ川となる別に西へ

長州下ノ關ノ圖

小ちなる海に入る。圓地の頭
を下の関。南北九町ばかり。
南北二海なる海の水。互に
通ずる瀬戸を名づけて。此潮
戸潮水箭なるごとく。水流
西国なる諸船。往来な

絳西を服す。瀬戸より北へ引島あり。廻り三十里。西は郷津浦。角嶋越えて大泊。鯖石西郡。古屋川あり。山あり。地野出八一なり。海を玉江の

浦といふ。河川を東南より西へ。数流を合して西へ流る。流れ分れて二つとなり。海へ落ちる。其間に海濱を為す。市街北の東北に萩町。北の下湊港。東より田方

川石見国を相近し一国
六郡にして山口縣の
管轄なり人口二十四万
餘気候穏にして風俗
山陰道より髣髴し
風俗の事遠憲ども其

産物に紙と雲母なり

但民日本國書巻六終

瓜生三寅著　第三大區三ノ小區四番甲一番地

明治五年壬申十月新雕

東京芝大神宮前

名山閣　和泉屋吉兵衛